

◎福祉実践教室プログラム

講座名	講師	時間	対象・人数	内容
手話	新城はぐるまの会 手話部	1時限	小4以下～	簡単なあいさつ、伝言ゲーム、手話で歌おう♪
手話	新城はぐるまの会 手話部 ※健聴者が講師です。	2時限	小5以上～ 1クラス	1時限目 ① 簡単なあいさつを学ぼう。(手話という言葉に親しむ) ② 聞こえないってどういうこと？(伝言ゲーム) ③ 正しく伝えることの大切さ(伝言ゲーム)
				2時限目 ① 手話の基本的動作、考え方の理解 ② 手話で簡単な歌を歌ってみよう。 ③ 身振り手振りで伝え合ってみよう。
手話	手話サークル「イコール」 ※聴覚障がいの方が講師です。	3時限	小5以上～	1時限目 聞こえないってどういうこと？不便なことは？ 耳の聞こえない講師の先生から実際に話を聴こう。
				2時限目 聞こえない人とコミュニケーションをとる方法(口話・身振り・筆談)
				3時限目 ① 日常生活に使う手話を学ぼう。 ② 手振りで伝言ゲームを試みよう。 ③ 手話で歌おう♪

講座名	講師	時間	対象・人数	内容
手話	手話サークルもみじの会 (鳳来地区)	1時間程度	小学校全校 20名程度 ※鳳来限定	初級の手話を学ぼう！「あいさつ」 聴覚障がい者と健聴者の関わりを知ろう。 聴覚障がいの者の社会的立場を知ろう。 ※聴覚障がいの方が一緒に参加します。
点訳	新城はぐるまの会 点訳部	1時間半程度	小5以上 1クラス 20～30名	目が見えないことの大変さを知ろう。 身近にある点字表示を探してみよう。 点字の歴史、組み立て方を学ぼう。 実際に点字を打ってみよう。(メ打ち、50音、自分の名前) 点字を読んでみよう。 街の中にある点字を大切にしよう。
要約筆記	新城はぐるまの会 要約筆記部	3時限	小5以上 1クラス	1時限 ① 自分の周りで耳の聞こえない人について知っていることを話し合う。 ② その人たちとコミュニケーションをとる方法は？ (身振り・手振り・表情・大きな声・手話・筆談) ③ 「要約筆記」という方法があることを知ろう。
				2時限 ① 中途失聴者の体験談(1～2名)を聴こう。 ② 中途失聴者の困っていること、望んでいることは何かを知ろう。 ③ 自分たちで手助けできることは何かを考えよう。 ④ 「要約筆記」の必要性を学ぼう。
				3時限(実技) ① 要約筆記体験…例文を聞き、シートに書く。 ② シート書きの添削 ③ まとめ…児童のシート書きの感想、中途失聴者の接し方など。

講座名	講師	時間	対象・人数	内容
ガイドヘルプ	新城はぐるまの会 身障ガイド部	2時限	小3 2クラス	1時限 目の不自由な人へのエチケットを学ぼう。
				2時限（実技） 目隠しをして歩いてみよう。 目が見えないということがどういうことか実感しよう。
障がい理解 「しょうがいて なに？」	手をつなぐ育成会 上田麻仁子氏	応相談	小学生 中学生	重度しょうがいの人の日常生活について 重度しょうがいの子をもつお母さんたちの話を聞いてみよう。 しょうがいを知るための簡単なチェックリストをやってみよう。
防災（実技） 「災害時の炊き出し」 ※体験日2か月前までの 申請が必要です。	新城はぐるまの会 (新城市赤十字奉仕団)	2～3時限	中学生～ 小学生は 父母と。 40名	① 災害時調理のためのハイゼックス袋を使って、米飯や蒸しパンを作ってみよう。 ② 炊き出しの基本を学ぼう。 ③ 災害時の食と衛生について学ぼう。
防災（実技） 「災害が起こった時に」 ※体験日2か月前までの 申請が必要です。	新城はぐるまの会 (新城市赤十字奉仕団)	内容を選択 して 1～3時限	中学生～	テーマ【避難所であなたが支援できること】 ① 講義…災害について、災害が高齢者に及ぼす影響、接する時の心遣い 気をつけたい病気や症状、ボランティアの心得 ② 実技…立ち上がり・起き上がりなどの支援 避難所でのリラクゼーション（清拭・足湯・癒しのハンドケア） 避難所での便利知識（毛布をガウンに、風呂敷をリュックに） ※床に寝て多少動くことができるスペースが必要です。 持ち物…フェイスタオル2枚、タオルが入るレジ袋1枚、風呂敷2枚

講座名	講師	時間	対象・人数	内容
<p>防災・高齢者支援 「お年寄りと共に」</p> <p>※体験日2か月前までの 申請が必要です。</p>	<p>新城はぐるまの会 (新城市赤十字奉仕団)</p>	<p>4時限</p>	<p>中学生～ 30名</p>	<p>1時限目 高齢者疑似体験セットを通じてお年寄りの感覚を体感しよう。 接する時の心遣いを学ぼう</p> <p>2時限目 講義…災害について、災害が高齢者に及ぼす影響 実技…立ち上がり起き上がり支援、あら便利！風呂敷をリュックに！</p> <p>3時限目 講義…気をつけたい病気や症状 実技…癒しのハンドケア、ホットタオルでほっと一息（足湯）</p> <p>4時限目 講義…ボランティアの心得 実技…リラクゼーション、毛布がガウンに変身！ ※床に寝て多少動くことができるスペースが必要です。 持ち物…フェイスタオル2枚、タオルが入るレジ袋1枚、風呂敷2枚</p>
<p>盲導犬</p> <p>※体験日2か月前までの 申請が必要です。</p>	<p>盲導犬ユーザーの方 ・ 中部盲導犬協会</p>	<p>2時限</p>	<p>小学生～ 学年もしくは は全校で</p>	<p>Aタイプ…実際に盲導犬と暮らしている盲導犬ユーザーさんの話を聞いてみよう。</p> <p>Bタイプ…実際にPR犬と訓練士が学校に訪問します。 盲導犬の育成について、聴覚障がい者との生活についてのお話 訓練の実演 盲導犬との体験歩行（代表者数名のみ）</p> <p>講師料は不要ですが、盲導犬の育成のために募金やアルミ缶・使用済み切手、毛布・タオル等の寄付にご協力をお願いします。</p>

講座名	講師	時間	対象・人数	内容
<p>介助犬</p> <p>早めにお申し込み下さい。</p>	<p>介助犬総合訓練センター シンシアの丘</p>	<p>1時間 (応相談)</p>	<p>小学生～</p>	<p>① 介助犬ってどんなことをする犬？ ② PR 犬による訓練の実演 ③ PR 犬を町で見かけた時には・・・ ④ 車いすに乗って PR 犬に指示を出してみよう。(代表数名のみ)</p> <p>※講演依頼書の提出が必要です。 事前学習 DVD にて事前学習をしていただくと、さらに理解が深まります。 新城市社会福祉協議会にて貸出をしています。 講師料：寄付金一律2万円と交通費(費用についてはご相談下さい。) 介助犬育成のために募金やアルミ缶・使用済み切手、毛布・タオル等の寄付にご協力をお願いします。</p>
<p>親子・仲間とのふれあい ～体操を通じて～</p>	<p>日本 G ボール協会認定 インストラクター 今泉勝代氏</p>	<p>1～2時限</p>	<p>希望による</p>	<p>ソフトボールを使っのコンディショニングエクササイズ、ストレッチ、 リラクゼーション、ゲーム</p> <p>・自分の体について知ろう。 ・親子・仲間と連携して動くことにより心のつながりやコミュニケーションを体感しよう。</p> <p>持ち物：飲み物、室内シューズ、敷物(マットやバスタオル)</p> <p>※依頼者の希望に沿ってプログラム作成します。</p>
<p>車いす</p>	<p>新城市 身体障害者福祉協会</p> <p>※講師：車いす利用者の方</p>	<p>1時間半程度</p>	<p>小4以上～</p>	<p>① 車いすの取り扱い方を知ろう。 ② バリアフリーってなに？車いすに乗って、運動場や体育館を移動してみよう。 ③ 肢体不自由(車いす利用者)の方のお話を聞いてみよう。 どうやって車に乗るの？生活していて困ることは？</p>

講座名	講師	時間	対象・人数	内容
<p>認知症サポーター講座</p> <p>早めにお申し込み下さい。</p>	<p>市の保健師 (認知症サポーターキャ ラバンメイトの資格を 持った方) ※新城市が主催です</p>	1 時間半	小学生 中学生	<p>①認知症についての講義 ②グループワーク ※対象によって内容は合わせてくれます。 ■認知症サポーターとは… 認知症を正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守る応援者のことです。 認知症になっても安心して暮らせるまちを目指します。 なお、講座終了後には認知症を支援する“目印”として、ブレスレット（オレンジリング）を配布します。</p>
福祉施設との交流	福祉施設の職員	応相談	希望による	高齢者、障害者などの施設利用者と児童・生徒が交流をし、利用者及び施設職員の仕事について学びます。
地域との交流	地域のボランティア	1 時限から 1 日	希望による	身近な地域の高齢者、ボランティアグループと交流を通じて、地域について学びます。

福祉教育実施についてのご注意

■申し込みと道具の貸出について

- ・福祉実践教室の講師との調整は社協にて行います。別紙「福祉学習申し込み用紙」にご記入の上、FAXにて下記までお申込み下さい。
- ・車いす、点訳器、白杖等、福祉学習に必要な用具は開催日までにしんしろ福祉会館まで取りに来てください。

■時間数・学習内容について

- ・多時限にわたっているメニューは、その中から選んだ1時限のみでも対応可能ですが、より深くしっかりと学ぶためには記載通りの時間数をおすすめします。
- ・学習内容については一例ですので、行いたい学習内容がありましたら下記へご相談ください。

■謝礼について

- ・謝礼は1団体につき、3,000円程度が目安です。(介助犬を除く) ※基本的には各学校の意向にお任せします。
ただし、中部盲導犬協会への謝礼については、県社協にて一括で謝礼の支払いをしておりますので、学校でのご用意は不要です。
認知症サポーター講座についても学校でのご用意は不要です。

※ふくしは特定の限られた人、かわいそうな人のためにあるものではありません。

地域に暮らす誰もが「ふだんの 暮らしの しあわせ」を実現できるよう、ふくしを「自分ごと」として捉えることが、差別や偏見のない社会や地域を作ることに繋がります。社会福祉協議会では福祉教育について地域や学校、関係機関と一緒に考えていきます。ぜひご相談ください。

新城市社会福祉協議会 ボランティアセンター

電話：23-5618 FAX：23-5046

〒441-1363

新城市字東沖野 20-12（しんしろ福祉会館内）